

作品 No.24



生きものの“つぶやき”:

**「我が命 ここで絶えねど 名残のみ 葦(くさびら)と化し いざ飛び  
立たむ」**

エッセイ:

2019年3月、私は京都府京都市のとある森に来ていた。目的は、台湾アリタケという冬虫夏草。丹念に低木の葉をめくり探すが、中々見つからない。ふと、一息ついて見上げたとき、ようやく見つけた。台湾アリタケである。洗練された機能美を誇るアリの首から、まるでアリ自身の魂が飛び立つように子実体を伸ばしている。アリの命からキノコの命へ、生命のつながりを否が応でも感じさせる。

こんなにも変わっていて美しい生きものなのに、ほとんど知られていない。事実この近くには観光名所のお寺があり、森を通る人も少なくない。が、皆気付いている様子はない。身近に見逃している自然に気付けば、こんなにも楽しいのになあ、と思うのであった。(302字)

### 生きものの紹介:

タイワンアリタケ *Ophiocordyceps ootakii*。チクシトゲアリに寄生する冬虫夏草の一種。一説には宿主の筋肉を操り、子嚢胞子の散布に都合のいい場所に誘導しているという。(Colleen A. Mangold, Melissa J. Ishler ら、2019)

### 撮影場所・日時:

京都府京都市・2019年3月15日

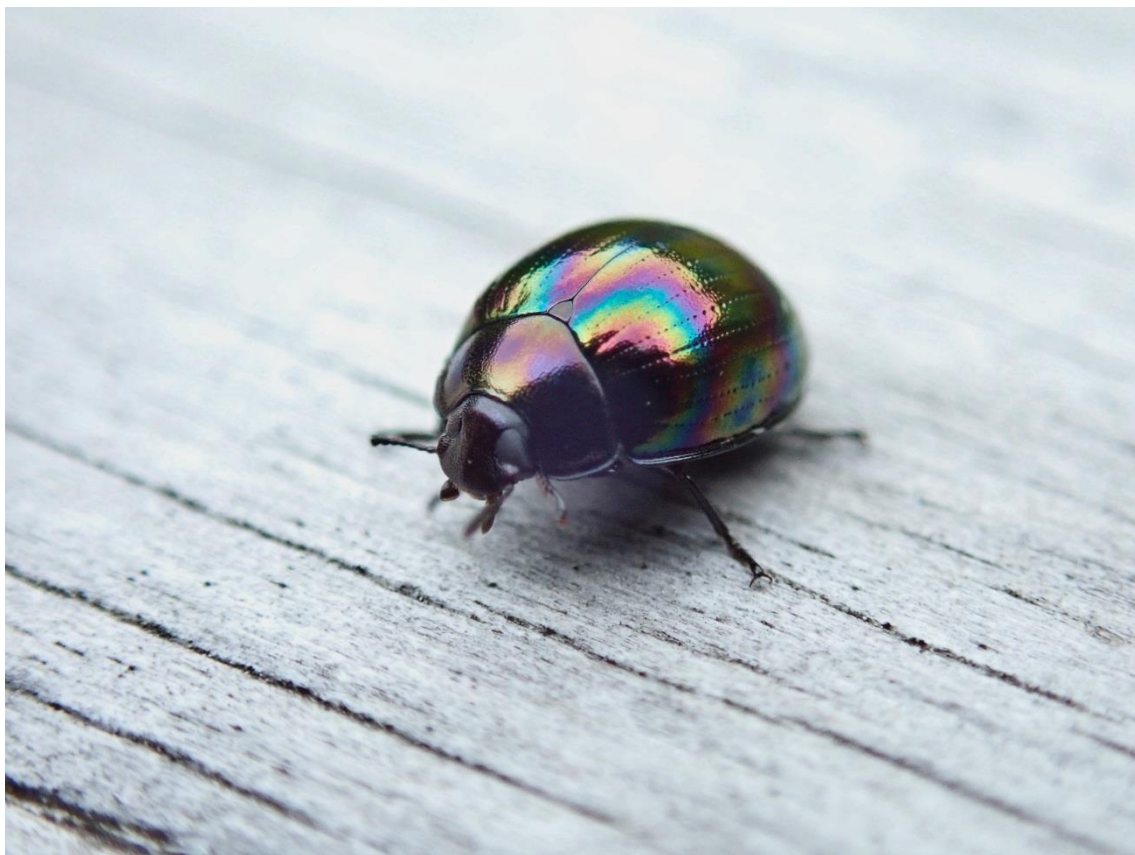
### 応募者の自己紹介:

1. 前田 創 (まえだ つくる) /大阪府立茨木高校1年
2. ライフル射撃部、クイズ研究会
3. 将来の夢: 菌類の研究者になりたいと思っている。

### 審査員よりひとこと

よく見つけましたねえ。短歌が秀逸です

## 作品 No.25



生きものの“つぶやき”:

**「僕、虹を背負ってるよ！」**

エッセイ:

2019年の梅雨、連日の雨の合間に有馬富士公園を訪れた。公園での散策途中、なんとか耐えていた曇り空から雨が降ってきてしまい、東屋で雨宿りとした。

すると、手すりの上を歩くこいつが目に止まった。テントウムシのような丸っこいフォルムだが、動きは中々素早い。トコトコ…と目の前を通り過ぎて行く。慌ててカメラを構え、シャッターを切る。一目見ただけでは黒いだけだが、よく眺めると輪形の模様がついていて、見る角度では虹の様だ。

存分に撮り終えて、空を見上げると虹がかかっていた。(228字)

生きものの紹介:

ニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus paykullii*。地味な種が多いゴミムシダマシの仲間だが、油膜のような虹色光沢をもつ。

撮影場所・日時:

兵庫県三田市 有馬富士公園・2019年6月9日

応募者の自己紹介:

1. 前田 創（まえだ つくる）／大阪府立茨木高校1年
2. ライフル射撃部、クイズ研究会
3. 将来の夢：菌類の研究者になりたいと思っている。

審査員よりひとこと

虹を背負って生きてるなんて、カッコいいですね。昆虫の持つ魅力に溢れた作品です。  
小さくても存在感は大きい！